

地域連携・地域交流は生活の中に ～元気ステーション『あるっさ』との交流～

1、目的と概要

元気ステーション『あるっさ』は、保育園から徒歩5分ほどの場所にある高齢者施設。数年前より、散歩中に手を振ったり、会話をすることで交流が始まり、今も続いている。

核家族化が進み、色々な世代の人との関わりが減ってきた現在、親や保育士からは得られない様々な知識や経験をして、高齢者との交流を楽しむ。

2、内容

【挨拶】



「こんにちは」
「おねがいします」
「ありがとうございました」をする。

【体操】



「アンパンマン体操」を見せたり、一緒に「ラジオ体操」をしたりして体を動かし、共に元気な体を作る。

【遊び】



シャボン玉を追いかけたり、ボールあそびをする中で声をかけあう。

3、成果と課題

おじいちゃん、おばあちゃんは、子どもたちがあそびに行くとても喜び、すぐにテラスへと出てきて満面の笑みで迎えてくれた。子ども達も自分たちのあそび場に到着したかのようにあそび始め、生活の一部のように交流していた。感染症予防に気を配りながらではあったが、子ども達に、優しく声をかけてもらい、温かい交流となった。今後も引き続き未満児との交流をしていくとともに、以上児の行事の中にも参加してもらえるような計画をして交流を広めていきたい。

